

草ヲ使用シ三日間焚キ續ケ三日目ノ終リニ於テドームノ頂上ニ設ケアル穴ヲ濕リタル粘土ノ塊ヲ以テ徐々ニ直徑ヲ狭ハメ遂ニ火ヲ消滅セシム窯ノ口ハ絶ヘズ濕リタル砂ヲ以テ充滿シタル袋ノ一種ヲ呈スル濕リタルツエルトヲ以テ蓋ヒ閉ツルナリ横様ニ附ケアル三個ノ窯ハ始終明ケ放シニ爲シ置キ四日間出來得ヘキ高キ熱度ヲ以テ焰ヲ維持ス斯クシテ通風ハ逆トナリテ窯ノ内部ヲ充シタル蒸氣ハ過熱サレ外部ノ空氣ノ壓力ヨリ高キ壓力ヲ得ルナリ製造ノ始メニ際シ淡赤色ヲ帶ヒタル煉瓦石ハ三日目ニ於テ全ク暗色ニ變シ硬化スルナリ

(以上二件志、岩)

### 雜記

○鴨川新水路工事 京都市鴨川新水路工事ハ琵琶湖疏水ノ流末ト伏見淀川トヲ連續スルモノニテ去ル明治二十三年度ノ市會ニ於テ工費十萬圓ヲ以テ起工スルトニ決セシカ同市經濟ノ都合ニ依リ一時之カ實施ヲ見合セ爾來再查ノ上多少前ノ設計ヲ補修シ更ニ其工費十二萬千三百二十八圓十六錢三厘トシテ本年八月ノ臨時市會ニ於テ起工ノ議ヲ決シタリ然ルニ土地収用ノ談判纏マラザリシガ爲メニ起工延引ニ及ビシガ此程萬端協議濟ノ上鴨川疏水落口以南ト七條鐵橋以南ト一時ニ起工スルニ至レリト云フ

其線路ノ起點ハ京都市上京區東川端夷川上ル疏水落口ニテ夫ヨリ鴨川東岸ヲ沿ヒ七條橋ノ南字釜カ淵ニ於テ鴨川ヲ離レ稍々東折シテ田圃ノ中ヲ徑ルヲ二千余間ニシテ紀伊郡伏見町

宇堀詰即ハチ豊臣氏ノ舊城壕ニ至ルモノトス舊壕ハ淀川ヨリ北ニ入ルヲ十余町アリテ古來  
 舟楫ヲ通シテ伏見町ノ舟溜トナリ居レリ  
 工事ノ目的ハ主トシテ伏見淀川ト京都トノ間ニ舟足三尺以上ノモノヲ通行セシメ得可キモ  
 ノヲ作ルノ目的ニテ之ニ依テ琵琶湖ト大阪灣トノ間ニ充分ナル水運ノ便ヲ全フスルモノナ  
 リ京都伏見トノ間ニハ慶長年間ニ作ラレタル(吉田了以所開鑿スル所)高瀬川アレハ水深僅ニ五寸乃至七  
 寸ニシテ琵琶湖疏水路ト淀川トハ共ニ舟足深キモノヲ通行サセ得ルニ關ハラズ中間ニアル  
 高瀬川ノ不充分ナル爲メニ舟楫ノ便全カラザルノ遺憾アルカ故ニ舊高瀬川ヲ改修スルカ又  
 ハ鴨川ニ新水路ヲ作ルカ執レテ好トスルヤヲ取調タル上ニ於テ右ノ水路ヲ適當トスルヲニ  
 決セシナリ工事成功ノ上ハ北滋賀ヨリ鐵道ニ藉ツテ輸送セシ貨物ハ滋賀縣長濱ヨリ琵琶湖  
 ヲ經又同琵琶湖沿岸ノ貨物ト共ニ疏水入口ナル大津ヨリ京都ニ至リ此水路ヲ經テ直ニ淀川  
 ニ出テ大阪ニ達スルモノニテ茲ニ始メテ琵琶湖疏水ノ運輸上ノ目的ヲ大成シ其直接間接ニ物  
 貨集散ノ上ニ著シキ影響ヲ顯ハスベキハ今日疏水路ノ運輸ニ就キテ推測セラルベシ  
 右水路ノ鴨川中ニ於テハ本川ト水路ヲ區劃スルニ幅六尺乃至十尺ノ石堤防ヲ築キ水路ト鴨  
 川トハ勾配ヲ異ニスルカ故ニ水路中ニハ水位高低ノ差三尺乃至八尺ノ閘門八ヶ所ヲ作り水  
 路ノ流勢ヲ緩ニシ鴨川ヲ離シテ田圃ニ入りシ後ハ土地ノ形狀ニ從ヒ或ハ土堤ヲ築キ或ハ堀  
 割ヲナシ平均勾配ヲ凡ソ四千分一トシ伏見墨染ニ至ツテ右ニ述ベタル堀詰ニ達スルニ高低  
 四十四尺ノ差アルガ故ニ爰ニ一ノインクラインヲ設クルモノナリ此高低ノ差アル處ニ於テ  
 ハ異日ハ水車場ヲ設ケテ諸製造等ノ原動力ニ供シ得ルノ目的ナリト云フ

(田邊)

今工事ノ種類及其金額ヲ示セバ左ノ如シ

新水路延長四千九百三十間 川巾平均二十尺

但シ京都市上京區鴨川夷川上ル疏水落口ヨリ紀伊

郡伏見町字堀詰舊濠ニ至ル

第一區 鴨川疏水落合ヨリ七條橋下マデ

開門

仁王門、孫橋三條下、四條下、

松原上、五條上、正面上、七條下、

隄防

隄防延長九百九十八間五分

川床堀

川床堀延長千二百七十間

全上

宮川町裏東側長百間

五條音羽川間船溜町百四十三間

隄防

七條下新築長五十間

石堤防

延長百五十六間

土抱

松原五條間東側長七十九間

竇

全 六十四間

改築

全 二百六十間

附屬工事

鴨川川中三條橋近傍其他

計

三七、〇〇七、四九五

第二區 七條橋下ヨリ鐵道際マテ

開鑿 七條下ヨリ鐵道迄長三百八十間 二、四四二、三九〇

橋梁 八條通リ 二、三三、五九六

全上 野通ヒ橋ニケ所 七、九六〇

算 長十間 二、五七、七八

全上 長三間 八、一六、七〇

土樋 養惡水路 一、四、五〇〇

計

二、九九、八五四

第三區 鐵道橋際ヨリ紀伊郡深草村字福稻迄

開鑿 鐵道橋ヨリ福稻迄長四百十間 四、八四〇、二六〇

船溜 鐵道橋脇 六、四六、六六〇

暗溝 二ノ橋川 二、九〇、五七〇

道路橋梁 同川脇 二、八、五五六

橋梁 野通ヒ橋五ヶ所 一、三三、〇〇〇

竇 三ノ橋川 四、〇六、三二

全上 養惡水路 五、一、三三四

水堰 鐵道ノ下 一、五七、八六二

土樋	養惡水路	八八〇
潰地	疏水落合ヨリ字福稻迄	六三〇、六三三
立毛損耗建家買上	全上	二八三、六六一
計		一五、九六、八一六
第四區	紀伊郡深草村字福稻ヨリ 全郡堀内村小字眞齋マデ	一七、三〇、二九〇
インクライン	一ヶ所	二六、二、五〇〇
開鑿	字福稻ヨリ小字眞齋迄 長千九百七十間	三九、〇〇七
橋梁	墨染通り	二四、九、四〇七
全上	撞木町通	一五、七、三六四
道路橋梁	伏見街道	一三、五、三六六
橋梁	陶器會社前通り	一四、一〇、二天
全	寶塔寺前通り二ヶ所	八九、七、九〇
全	下町通り	一一、六、四八
全	野通ヒ橋三十三ヶ所	六六、六、五〇〇
全	藤森前	
船溜	稻荷前	

水堰	寶塔寺川	五五、五〇〇
竇	七瀬川	三二、三三八
全	養惡水路	二〇、〇八天
井路附換	長七十間	六二、三三〇
伏越樋	養惡水路	二五、四、五〇
潰地		九〇、八九、四八四
立毛損耗建家買上		七、三六、七〇〇
計		五〇、九七、九二三
第五區	小字眞齋ヨリ伏見堀詰迄	二二、二、七六五
閘門	一ヶ所	一四、一〇、二天
開鑿	小字眞齋ヨリ堀詰迄長三百三十間	二、五六、四六〇
橋梁	土橋通り	一四、一〇、二天
全上	上板橋通り	一四、一〇、二天
全上	野通ヒ橋二ヶ所	五、三、三〇〇
暗溝	養水路	二二、一、三三〇
井路附換	長百二十間	二二、一、六二〇
土樋	養惡水路	五、八、〇〇〇
潰地		一、五七、〇四四

立毛損耗建築買上

計	四〇三、八三七	雇給	一、九〇、〇〇〇
雜部	七四三、五六八	旅費	一、五二、七二〇
測量費	八五三、三四	井泉手當	一、五〇、〇〇〇
雜費	一、二五、一〇〇	計	六、九四、一三四
		合計	三、三六、一六四

○四回用汽機

(Engineering News 9/3/92) 橫濱臨時築港局ニテ使用スル 躑躅丸霧嶋丸ノ二船

ハ明治廿二年英國エ注文セシモノニテ四回用汽機ヲ備ヘリ蓋シ本邦ニテ新機ヲ輸入セシ嚙矢ナルベシ然ルニ米國ニテハ新機ノ利ヲ認メシニヤ此頃紐有エジソン電燈會社ヨリペンシルヅエニヤ州スカラントン府ノヂキソン製造會社ヘ大汽機ヲ注文シ其工事ニ着手セリト云フ  
 瀛ハ壹平方吋ニ付貳百拾磅馬力ハ貳千五百瀛筒ノ直徑ハ貳拾六吋、三拾七吋、五拾貳吋、七十吋時ニシテ衝程ハ三拾六吋一分時間ノ回轉數壹百ナリ乃チ唧子ノ速率ハ壹分時間六百呎ニ當ルト云フ (石、絢)

○船舶出入

(官報第二八三號轉載)

兵庫外十五縣管内諸港灣ニ於ケル本年九月中船舶出入數ハ合計四万四千七百廿八艘ニシテ内瀛船出六千八百八艘入六千六百廿一艘、西洋形帆船出七百艘入七百廿二艘、日本船形出一万五千四百八艘入一万五千六百六十九艘ナリ其細別ハ左表ノ如シ(平、徳)

瀛船		西洋形帆船		日本形船	
兵庫縣	神戶	瀛船	西洋形帆船	日本形船	瀛船
兵庫	神戶	瀛船	西洋形帆船	日本形船	瀛船
入	出	入	出	入	出
六六一	六二六	八三三	八九九	一一三	一一三
六二五	六二六	一一三	一一三	一一三	一一三
西宮	同	兵庫	同	瀛船	西洋形帆船
同	同	入	出	入	出
一一	一一	一一	一一	一一	一一
五八	五八	一一	一一	一一	一一
一一〇	一一〇	一一	一一	一一	一一
一九	一九	一一	一一	一一	一一
一一七	一一七	一一	一一	一一	一一